令和７年度　薩摩川内市立里中学校　ふるさと・コミュニケーション科　全体計画

ふるさとコミュニケーション科の全体構造
（H29 年 11 月改定）

【学校の教育目標】
ふるさとを胸に、社会の中で自立していく生徒の育成

【生徒の実態】
○互いに思いやりがあり、みんなで協力することができる。
○物事への対応がやや依存的であり、主体性を伸ばす必要がある

【保護者の願い】
～島立ちに向けての準備～
○基礎的・基本的な知識及び技能の定着
○思考力、判断力、表現力の育成
○健康で安全な生活

【地域の実態】
○地域としてのつながりや連携性が高い
○学校教育に対する理解があり、協力的
○地域行事での中学生への期待が大きい

【地域の願い】
○自分たちの地域や産業、文化等に誇りをもつ
○豊かな人間性を身に付けている
○地域と積極的に関わり、行事等にすすんで参加する

【本校におけるふるさと・コミュニケーション科の目標】

甑島の自然や歴史、文化、人々の営みを横断的・総合的に学ぶことを通して、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、誇りに思うと同時に、ふるさとでの学びにおいて、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自分なりの生き方を創造するための資質・能力を育成する。

知識及び技能（A）	思考力、判断力、表現力等（B）	学びに向かう力、人間性等（C）
地域の自然や歴史、文化、人々の営みについて体験的に学び、そのよさやすばらしさ、それを支える人々の努力や工夫について気づくとともに、探求的学習に必要な知識及び技能を身に付ける。	地域の自然や歴史、文化、人々の営み等の中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ、豊かに表現する力を身に付ける。	地域の自然や歴史、文化、人々の営みについて、主体的・協働的に取り組むとともに、人への優しさや思いやりの発揮を通して、自分への自信を高めたり互いのよさを生かしたりしながら、地域の一員として自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

【内容及び育成を目指す具体的な資質・能力】

学年			第１学年（５０時間）	第２学年（７０時間）	第３学年（７０時間）
全校テーマ			ふるさとを通し、生き方を考える		
学年テーマ			地域のよさや課題と自分たちの生活とのかかわりを考える	他者とのかかわりの中で、自分の在り方を考える	将来とのかかわりの中で、「島立ち」後の自分をデザインする
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	知識	・地域の「歴史」「自然」「文化」の特徴やよさが分かる。 ・地域の先人や地域に住んでいる人々のふるさとに対する思いや自分たちの生活を支えるさまざまな努力・工夫について理解する。	・ふるさとのよさを見出し、それを支える地域の人々の努力や工夫について理解する。 ・働くための心得や意義を理解するとともに、自己理解や社会とのつながりについて理解を深める。	・地域活性化の取組に関わり人々の思いや願い、自分とのかかわりについて理解する。 ・自らの成長、段階に応じた対応の仕方について考えるとともに、人が成長するためには様々な人が関わっていることに気付く。
			・課題解決に向けて必要なことを自ら考え、探究を自律的に進めることができる。 ・各教科等で身に付けた知識及び技能等を総合的に活用・発揮することで、学習が深化するよさを理解することができる。		
		技能	・課題の解決に向けて、様々な情報を収集し、複雑な問題状況における事実や関係を把握し、事象を比較する、分類する、関連付ける等の探求の過程に応じた考えるための技法を身に付ける。		
	思考力、判断力、表現力等	課題の設定	・自分たちを取り巻く社会や「島立ち」を踏まえた自らの生き方などに広く目を向けて、活動の意図や目的を明確にしたりして課題を見いだすことができる。 ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。		《課題対応能力の育成に係る資質能力》 【本質の理解】 【原因の追及】 【課題発見】 【情報の理解・選択・処理等】 【計画立案】 【実行力】 【評価・改善】
		情報の収集	・目的に応じて手段を選択し、情報を収集し適切な方法で蓄積することができる。 ・他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択することができる。		
		整理・分析	・問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けることができる。 ・事象や考えを比較したり因果関係を推論したりして考え、視点を定めて多様な情報を分析することができる。		
		まとめ・表現	・調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができる。 ・各教科等で身に付けた知識及び技能等を総合的に活用・発揮し、表現することができる。		
		振り返り	・学習の仕方や進め方を振り返り、これからの学習や生き方に生かそうとしている。 ・振り返りの観点を自己で設定して活動を振り返り、次の活動に生かそうとしている。		
	学びに向かう力、人間性等		・課題に対して自分の考えをもち、よりよい方法を選択して、解決に向けた探求活動に自ら進んで取り組もうとする。（主体性） ・自他の良さを生かしながら、協力しながらよりよい解決に向けて取り組もうとする。（協働性） ・探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする。（自己理解） ・探求的な活動を通して、多様な他者の考えや立場を理解し、尊重しようとする。（他者理解） ・探求的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組むとともに、積極的に地域の活動に参加しようとする。（地域貢献）		

指導方法	指導体制	評価計画
・探求の過程が連続、発展していくよう、プロジェクト学習を設定する。 ・生徒が主体的に取り組むための支援と工夫（個に応じた指導や体験活動の重視等）を行う。 ・「ふる・コミュ科」を軸とした教科等横断的、総合的かつ探求的な学習を展開する。 ・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用し、意見交換させる場面の設定を行う。	・全校指導体制を組織する。 ・校内の連絡調整、責任者を明確にした指導体制を確立する。 ・学習成果を発表する場の設定を行う。 ・メディアセンターとしての学校図書館・PC 室の整備・充実、生徒のタブレット等による、情報の収集、整理、発信できるよう整備を図る。 ・地域素材、地域人材の積極的活用に向けた体制づくりを行う。	・振り返りシートを活用した自己評価、グループ内自己評価等、多面的な評価の工夫を行う。 ・キャリアパスポート等を活用しながらポートフォリオを作成し自己の変容を促す。 ・観点別学習状況を把握する評価規準を設定する。 ・個人内評価を重視する。 ・指導と評価の一体化を充実する。 ・授業分析による学習指導の評価を重視する。 ・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

【各教科等で育成する資質・能力】

国語	・自分の気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりしながら、様々な材料を基にして自分の考えを深め、立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。	音楽	・基礎的な表現の技術を身に付け、創造的に表現する態度を育てる。創意工夫し、美しく表現する能力を育てる。
		美術	・対象を深く観察する力、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的な知識と技術を身に付け、多様な表現方法や造形要素に関心をもち、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
社会	・身近な地域に対する関心を深め、資料を適切に選択、活用して多面的・多角的に考察し、適切に表現する能力や態度を養う。	保健体育	・運動における競争や協働の経験を通して、公正な態度や進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たそうとする態度を育てる。
数学	・問題を解決する手段を様々な角度から探す力を育てる。数量的な関係を整理し、まとめる能力を育てる。	技術家庭	・実践的、体験的な活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピューター活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、日常生活で活用する能力と態度を育てる。
理科	・自分たちの住んでいる自然環境に興味をもち、それを保全していこうとする態度を育てる。	道徳	・道徳科を要とし、思いやる心を育む。（主として「真理の探究、創造」「思いやり、感謝」「社会参画、公共の精神」「相互理解、寛容」）
外国語	・言語や文化に対する理解を深めるとともに、言語を使用してお互いの意思を伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	特別活動	望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主性、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての時間を深め、自己を生かす能力を養う。

【小学校や進路先、地域との連携】

【小学校との連携】
・中期交流学習（「ふるさと甑島」、「わくわく座談会」）の実施
・小学校で育成された資質・能力及び小学校での学習内容を確認する。
・ポートフォリオやキャリアパスポートなどによる学習の記録を行う。

【進路先との連携】
・県内各高等学校との連携（情報交換）
・地域事業所との連携

【地域との連携】
・地域の農業従事者、商工会、公共施設等の活用（GT の依頼）
・地域の事業所、観光協会等との連携
・薩摩川内市企業連携協議会との連携